

## Dominion® SX II

### 内容物一覧

SX IIは、標準的な19インチラックに搭載可能なスタンドアロン製品です。

- SX II本体
- ラックマウントキット
- AC電源コード (2本)
- デスクトップ設置用ゴム足 (4つ)
- 保証書

### ラックマウント

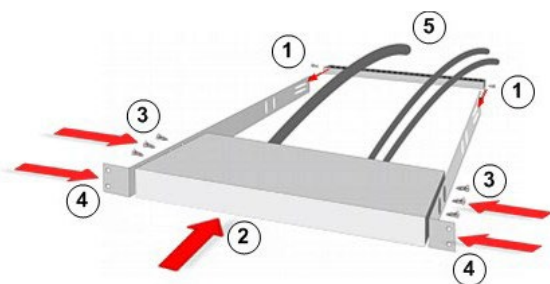
SX II本体は、19インチラックの1U (44mm)スペースに取付可能です。

注: 図に示されるユニットは、実際と異なる場合があります。

### ラック前面への取付

図の番号と手順番号が対応しています。

1. 付属している2本のネジを使用して、ケーブルサポートバーを側面ブラケットの後端に固定します。
2. SX IIの背面パネルがケーブルサポートバーに面した状態で側面ブラケットの間にはめ込み、前面パネルが側面ブラケットの「耳」と揃うように調整します。
3. 付属しているネジを使用して、SX IIの両側 (片側3本ずつ) を側面ブラケットに固定します。
4. サーバーラックの前面にラック専用のネジ・ボルト・ケージナットで側面ブラケットの耳を固定します。
5. SX IIの背面に接続するケーブルは、ケーブルサポートバーの上を通します。

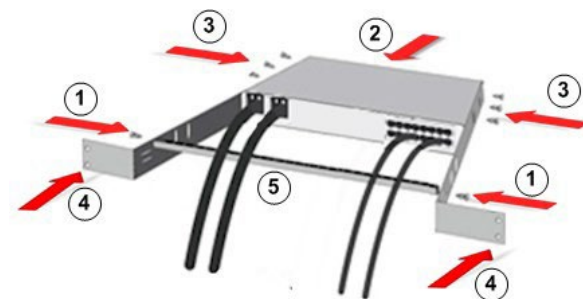


### ラック背面への取付

図の番号と手順番号が対応しています。

1. 付属している2本のネジを使用して、ケーブルサポートバーを側面ブラケットの前端 (ブラケットの「耳」付近) に固定します。

2. SX IIの背面パネルがケーブルサポートバーに面した状態で側面ブラケットの間にはめ込み、前面パネルが側面ブラケットの後端に揃うように調整します。
3. 付属しているネジを使用して、SX IIの両側 (片側3本ずつ) を側面ブラケットに固定します。
4. サーバーラックの前面にラック専用のネジ・ボルト・ケージナットで側面ブラケットの耳を固定します。
5. SX IIの背面に接続するケーブルは、ケーブルサポートバーの上を通します。



### 工場出荷時設定

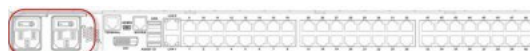
SX IIの工場出荷時設定は以下になります。

- IPアドレス - 192.168.0.192
- ユーザー名 - admin (全て小文字)
- パスワード - raritan (全て小文字)

**重要: 管理者権限を持つバックアップユーザーを作成し、その情報を厳重に管理することによって、管理者パスワード紛失によるトラブルを防ぐことができます。**

### SX IIの接続セットアップ

1. 添付されている電源コードを使用して、ACコンセントに差し込みます。
2. 冗長電源として、2番目の電源も利用可能です。



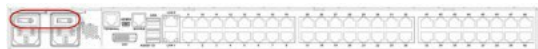
3. SX IIはUSB接続の外部モデムをサポートしますが、日本市場ではSX II対応モデムであるSierra Wirelessの販売をしておりません。
4. SX IIのサーバーポートにシリアルデバイスを接続します。



シリアルデバイスとの接続には、標準的なCat.5ケーブルを利用します。

注: シリアルデバイスに用意されたRJ45ポートのピンアサインが独自配列の場合、シリアルデバイス側のオプション品として接続アダプターが用意されている事がありますので、ご確認ください。

- SX IIの電源をONにします。

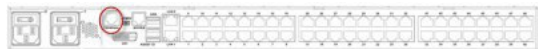

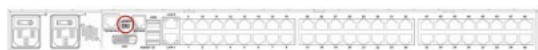


- SX IIをネットワークに接続して、ネットワーク設定を開始します。

## ネットワーク接続とSX IIの設定

コマンドラインインターフェース (CLI) もしくはWebブラウザで設定します。

### ▶ CLIによる設定

- CLIで設定する場合、次のいずれかでSX IIに接続します。
  - シリアルコンソール接続用の「TERMINAL」ポートにPCを接続
 
  - DVI-DとUSBポートを利用してモニター/キーボード/マウスを接続
 
  - ADMINポート (Mini-USB) にPCを接続
 
- SX IIに接続すると、エミュレーターインターフェースが開くので、キーボードのEnterキーを押下します。
- ログインプロンプトが表示されたら、ユーザー名「admin」、パスワード「raritan」を全て小文字で入力します。
- 工場出荷時のパスワードを変更したら、このパスワードを紛失しないように管理してください。CLI経由でパスワードを変更する場合、「スペース」で開始もしくは終了することはできません (Webブラウザによるパスワード変更では該当しません)。また、工場出荷時のネットワーク設定は、静的IPアドレスとなっています。
- “admin >” プロンプトで「config」と入力し、“admin > Config >” プロンプトで「network」と入力します。
- “admin > Config > Network” プロンプトで、以下のように入力します。  
 interface if lan1 ipauto none ip <ip address> mask <mask> gw <gateway ip address> (※改行しないで入力する事)  
  
 DHCPを使用する場合、interface if lan1 ipauto dhcp と入力します。
- SX IIの名称を以下のように入力します。  
 name devicename <DSX2 name>  
  
 最大32文字の利用が可能で、特殊文字とスペースは利用不可です。

- “admin > config > network >” プロンプトで「quit」と入力すると上位メニューの“admin > config >”に戻るので「time」と入力します。
- “admin > config > time >” プロンプトでSX IIの日付と時刻を設定します。
  - 「timezonelist」と入力すると対応したタイムゾーン番号を見つめることができます。(※日本標準時の番号は「30」)
  - タイムゾーン/日付/時刻を以下のように入力します。  
 clock tz <timezone code> date <date string> time <time string>  
  
 日付を表す <date string> の書式は "YYYY-MM-DD"、時刻を表す <time string> の書式は "HH:MM:SS" (24時間表記) です  
  
 入力例) clock tz 30 date "2023-02-09" time "13:59:33"
- 「top」と入力すると“admin >” プロンプトに戻ります。
- サーバーポートに接続されたターゲットデバイスを設定するために「config」と入力して、次に「port」と入力します。
- 例えば、ポート4を以下のような書式で設定します。各設定項目と値は「config?»で確認できます。


```
config port 4 name Test-Deivce1 bps 11520 parity odd flowcontrol none
emulation vt100
```

また、ワイルドカードとして「\*」(アスタリスク) を使用できます。  
 全てのポートの通信速度を1回で設定する場合: config port \* bps 115200  
 さらに「-」や「,」を使用して特定のポートのみ設定する事も可能です。  
 ポート1と2と7から9を設定する場合: config port 1,2,7-9 bps 115200

- 設定が完了したら「top」と入力して“admin >” プロンプトに戻ります。

### ▶ Web UIによる設定

工場出荷時状態のSX IIを設定する際、クロスケーブルをSX IIに接続します。

- クロスケーブルを使用して、SX IIとPCを接続します。  

- PCのIPアドレスを一時的に「192.168.0.191/24 (255.255.255.0)」に設定します。
- Webブラウザで「http://192.168.0.192」に接続します。
- ログインウインドウが表示されたら、ユーザー名を「admin」パスワードを「raritan」と入力します。(※全て小文字で入力)
- 工場出荷時パスワードの変更を求められるので、任意のパスワードに変更します。(※変更したパスワードを厳重に管理してください)

6. メニューから Device > Network を選択します。

7. 「Device Name」を設定します。  
(※最大64文字で特殊文字とスペースは利用不可)
8. 「Basic Network Settings」でSX IIのネットワークを設定します。工場出荷時、DHCP設定は無効 (IP Auto Configuration = None) です。
9. SX IIのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを設定したら、「OK」をクリックして設定を保存します。
10. メニューから Device Settings > Date/Time を選択して、日付と時刻を設定します。

11. 「Time Zone」のリストから適切なタイムゾーンを選択します。
12. サマータイム適用地域の場合、「Adjust for daylight savings time」にチェックを入れます。(※日本国内利用の場合は不要)
13. 日付と時刻の設定方法を選択します。
- User Specified Time - ユーザーが手動で設定します (24時間制)。
  - Synchronize with NTP Server - タイムサーバー (NTP) による自動設定です。タイムサーバーは、Primary Time Server と Secondary Time Server の2つまで指定できます。

注意: ネットワーク設定がDHCP設定の場合、タイムサーバーはDHCPサーバーから自動的に取得されます。「Override DHCP」にチェックを入れた場合、上書き設定が可能です。

14. 「OK」をクリックして設定を保存します。

15. メニューから Device Setting > Port Configuration を選択して、ターゲットデバイスが接続されているポート名を選択します。

16. ポートの設定を行ないます。

17. ポートの設定が完了したら「OK」をクリックして保存します。

18. 任意のポート設定を他のポートへコピーしたい場合、「Apply Serial Port Settings To Other Ports」メニューを開きます。  
コピー先のポートにチェックを入れて「OK」をクリックすると設定がコピーされるので、必要に応じてコピー先の設定を編集します。

19. 編集が完了したら「OK」を押して保存します。必要に応じて、他のポートでも同様の作業を実施します。

## その他の設定および確認

- ユーザーとグループを作成
- 認証およびセキュリティの設定
- リモートアクセスの確認

## その他

SX IIおよびRaritanの全ての製品については、RaritanのWebサイトをご参照ください。また、技術的なお問合せにつきましては、Raritanテクニカルサポートへお問合せください。日本のテクニカルサポートへの連絡につきましては、RaritanのサポートWeb (<https://www.raritan.com/jp/support>) をご参照ください。

Raritanの製品は、GPLおよびLGPLに基づいてライセンスされたコードを使用しています。オープンソースコードのコピーは、Raritanに要求することが可能です。詳細については、RaritanのWebサイトにあるオープンソースソフトウェアに関する記述をご参照ください。

[Open Source Software Statement]

<http://www.raritan.com/about/legal-statements/open-source-software-statement/>